

ウィーン・ヨハン・シュトラウス・ヴィルトゥオーゾ

Johann Strauss Virtuosi Vienna



ウィーン・ヨハン・シュトラウス・ヴィルトゥオーゾは、1997年に設立された国際的に名高いウィーン・オーケストラのソリストたちからなるアンサンブル。高い音楽的水準に加え、統一されたサウンド、喜びあふれる舞台、非の打ちどころのない音楽を表現することで、帝都ウィーンの魅惑的な時代を音楽で伝える、他のアンサンブルとは異なる魅力を持つ存在である。オーケストラと同じようかつてのオーストリア＝ハンガリー帝国の夏の離宮、シェーンブルン宮殿で定期的に演奏しているほか、世界各地でコンサート・ツアーを行っている。

ウィーン・ヨハン・シュトラウス・ヴィルトゥオーゾは、演奏する作品のウィーン流の解釈に大きな重点を置いている。モーツァルト等のウィーン古典派の作曲家の作品、ウイナ・ワルツやウィーンのオペレッタ等の音楽を、微妙かつ独特のタッチとウィーン流の語法で、常に「ウィーン」の音楽を表現することでは他の追従を許さない。

タカーチ弦楽四重奏団

Takacs Quartet, string quartet



1975年にブタペストのフランツ・リスト音楽院で結成され、エヴィアン及びポーツマス(現ロンドン)国際弦楽四重奏コンクールで優勝し注目を集めた。アメリカ、コロラド大学で後進の指導に携わる傍ら、ヨーロッパ、北米、アジアなど世界各地で年間約80回の公演を行っている。室内楽の指導にも力を注いでおり、アスペン音楽祭やサンタバーバラのミュージック・アカデミーにて指導にあたっている。数々の録音が賞を受賞しており、ベートーヴェンの後期弦楽四重奏曲集は2005年BBCミュージック・マガジンのディスク・オブ・ザ・イヤー、室内楽賞に選ばれ、グラモフォン・アワードや日本のレコード・アカデミー賞も受賞。デッカ・レーベルに数多く

の作品を録音。2001年ハンガリー共和国より騎士十字勲章を受章。2012年にはハイフェッツやバーンスタインといった錚々たる音楽家と並び、弦楽四重奏団としては唯一グラモフォンへの殿堂入りを果たした。

スーパー・ストリング・アンサンブル(弦楽アンサンブル)

Super String Ensemble

日本が世界の誇る弦楽四重奏団、東京クワルテットの設立(1969年)メンバーで第1ヴァイオリンを12年つとめたヴァイオリニストで指揮者でもある原田幸一郎の門下生を中心に、いしかわミュージックアカデミーの卒業メンバーでソリストやオーケストラのコンサートマスターなどからなる特別アンサンブル。弦楽器・室内楽・オーケストラを知り尽くした原田の棒のもと、練り上げられた弦楽器の究極のアンサンブルが高く評価されている。

原田幸一郎(指揮)

Koichiro Harada, conductor



桐朋学園で学び、ジュリアード音楽院にてP.マカノヴィッキー、D.ディレイ、I.ガラミアンの各氏に師事。1969年に東京クルテットを結成、ミュンヘン国際コンクールで優勝し12年間第1ヴァイオリンをつとめた。エリザベート王妃、ロン＝ティボー、ミュンヘン、ハノーファー等、数多くの国際コンクールの審査員を務めている。また、いしかわミュージックアカデミー等、教育活動にも力を注いでいる。指揮者としては、1988年に新日本フィルでデビュー以来、指揮活動にも意欲的に取り組んでいる。大阪フィル、読売日響、札幌、京都市響など日本各地のオーケストラを指揮し、いずれも好評を博している。現在、桐朋学園大学特命教授、東京音楽大学特任教授。また、マンハッタン音楽院のファカルティーとしても後進の指導にあたっている。いしかわミュージックアカデミー音楽監督。

崎谷直人(ヴァイオリン)

Naoto Sakiya, violin



1998年ノボシビルスク国際コンクールジュニア部門第1位、メニューイン国際コンクールジュニア部門第3位を獲得し、ケルン音楽大学に最年少15歳で入学。その後パリ市立音楽院、桐朋学園ソリスト・ディプロマコースを経て、バーゼル音楽院修了。2006年にウェールズ弦楽四重奏団を結成。第1ヴァイオリン奏者として、ミュンヘン国際コンクール、大阪国際室内楽コンクールで各3位を獲得。2014年より8年間、神奈川フィルのソロ・コンサートマスターを務めた。ヴァイオリンを、原田幸一郎、ザハール・ブロン、ジェラルド・プーレ、ロラン・ドガレイユ、ダニエル・ゼベック各氏に、弦楽四重奏をライナー・シュミット氏(ハーゲン四重奏団)に師事。現在は、ウェールズ弦楽四重奏団、石田泰尚とのヴァイオリンユニット“DOS DEL FIDDLES”等で幅広く活動し、全国のオーケストラに客演コンサートマスターとして多数出演している。

周防亮介(ヴァイオリン)

Ryosuke Suho, violin



ヴェニャフスキ国際コンクール入賞ほか国内外のコンクールで優勝や入賞を果たす。パリ管弦楽団やNHK交響楽団など国内外オーケストラと共演多数。15歳で初リサイタル。2023年1月にはサントリーホール大ホールにて「無伴奏ヴァイオリン・リサイタル」を開催するなど、その活躍は目覚ましい。東京音楽大学特別特待奨学生として学び、修了後メニューイン国際音楽アカデミーに留学。ヴェンゲーロフ氏、カピュソン氏のもと研鑽を積んだ。使用楽器はNPO法人イエローエンジェルより貸与されている1678年製ニコロ・アマティ。

篠原悠那(ヴァイオリン)

Yuna Shinohara, violin



2023年第17回岩城宏之音楽賞受賞。02年よりいしかわミュージックアカデミーを受講し 05,09,10,12年 IMA 奨励賞受賞。第80回日本音楽コンクール第2位、岩谷賞(聴衆賞)受賞。カルテット・アマービレ 1st ヴァイオリン奏者として第65回 ARD ミュンヘン国際音楽コンクール弦楽四重奏部門第3位、特別賞(コンクール委嘱作品の最優秀解釈賞)、第22回ホテルオークラ音楽賞受賞。桐朋学園大学大学院修士課程修了。使用楽器は1832年 G.F.プレッセンダ ex“カール・フレッシュ”(宗次コレクション)。

前橋 汀子(ヴァイオリン)

Teiko Maehashi, violin



日本を代表する国際的ヴァイオリニストとして、その優雅さと円熟味に溢れる演奏で、多くの聴衆を魅了し続けている。5歳から小野アンナにヴァイオリンを学び、その後、桐朋学園子供のための音楽教室、桐朋学園高校を通じて斎藤秀雄、ジャンヌ・イスナールに師事。17歳で旧ソ連国立レニングラード音楽院(現サンクトペテルブルク音楽院)創立100年記念の一環として、日本人初の留学生に選ばれ、ミハイル・ヴァイマンのもとで3年間学んだ。

その後、ニューヨーク・ジュリアード音楽院でロバート・マン、ドロシー・ディレイ等の指導を受け、さらにスイスでヨーゼフ・シゲティ、ナタン・ミルシテインの薫陶を受けた。

レオポルド・ストコフスキーの指揮により、ニューヨーク・カーネギーホールで演奏会デビュー。国内外で活発な演奏活動を展開し、世界各国の代表的なオーケストラとの協演も数多く、ベルリン・フィル、英ロイヤル・フィル、フランス国立管、クリーヴランド管、イスラエル・フィル等枚挙に暇がない。指揮者もメータ、ロストロポーヴィチ、ケンペ、サヴァリッシュ、マズア、小澤征爾ほか多彩なマエストロたちと協演している。スイス・ロマンダ管弦楽団とは国連コンサートに招かれ、その演奏の様子は全世界に放送された。室内楽の分野でも、ピアノのイェルク・デームス、クリストフ・エッシェンバッハ、アナトール・ウゴルスキ等の名手たちと共演している。

2004年日本芸術院賞、2007年第37回エクソンモービル(現・ENEOS 音楽賞)音楽賞洋楽部門本賞受賞。2011年春の紫綬褒章、2017年春の旭日小綬章を受章。

使用楽器は1736年製作のデル・ジェス・ガアルネリウス。

オフィシャルホームページ <https://teikomaehashi-violin.com/>

松本和将(ピアノ)

Matsumoto Kazumasa/ Piano



日本音楽コンクール優勝、金賞を受賞。ブゾーニ国際ピアノコンクール第4位、エリザベト王妃国際音楽コンクール第5位入賞。

これまでにプラハ交響楽団、プラハフィル、ベルギー国立オーケストラ、読売日響、日本フィル、新日本フィル、東京交響楽団、東京フィルなど、多くのオーケストラと共演。2016年より「松本和将の世界音楽遺産」と名付けたリサイタルシリーズを開始、東京公演・岡山公演を始め全国に広げている。またコロナ禍を機にオンラインでも活動も積極的に取り組みはじめ、YouTube・オンラインサロン・Twitterなどで自身の演奏動画の他深い見識に基づく解説やつぶやきなどをアップし話題となっている。

これまでに2枚のレコード芸術特選盤(「展覧会の絵」「後期ロマン派名曲集」)を含む24枚のCDをリリース。

東京音楽大学准教授、名古屋音楽大学ピアノ演奏家コース客員准教授として、後進の指導にもあたっている。

公式HP:<http://www.kaz-matsumoto.com>

ツイッター:[@kazmatsuki](https://twitter.com/kazmatsuki)

YouTube チャンネル:<https://www.youtube.com/channel/UCrhBnjDRO35kYp64utCNxmg>

原田 慶太楼(指揮)

Keitaro Harada conductor



欧米を中心に目覚ましい活躍を続けている期待の俊英。東京交響楽団正指揮者。シンシナティ交響楽団およびシンシナティ・ポップス・オーケストラ、アリゾナ・オペラ、リッチモンド交響楽団のアソシエイト・コンダクターを経て、2020年シーズンからアメリカジョージア州サヴェンナ・フィルハーモニックの音楽&芸術監督に、2024年4月には愛知室内オーケストラの首席客演指揮者兼アーティスティック・パートナーに就任。オペラ指揮者としてアリゾナやノースカロライナ、シンシナティ、ブルガリア国立歌劇場でも活躍。2010年タンゲルウッド音楽祭で小澤征爾フェロー賞、13年B・ワルター指揮者プレビュー賞、米国シヨルティ財団キャリア支援賞6度、2023年には日本人初となるトップのコンダクター賞を受賞。09年キャットソルトン・フェスティバルにL・マゼールの招待を受けて参加。1985年東京生まれ。指揮をF.

フェネルに師事。第29回渡邊暁雄音楽基金音楽賞、第20回齋藤秀雄メモリアル基金賞受賞。

2024年5月31日、2025年7月からアメリカオハイオ州のデイトン・フィルハーモニック管弦楽団音楽・芸術監督に就任することが日米で同時に発表された。日本で2つのタイトル、アメリカで2つのタイトル、原田は今新たな旅を始めようとしている。

kharada.com/ @KHconductor

小林沙羅(ソプラノ)

Kobayashi Sara/ Soprano



東京藝術大学及び同大学院修了。2010～2015年ウィーンとローマにて研鑽を積む。

2012年ブルガリア国立歌劇場『ジャンニ・スキッキ』ラウレッタ役、『愛の妙薬』アディーナ役で欧州デビュー。2015年及び2020年野田秀樹演出『フィガロの結婚』スザンナ役、2017年藤原歌劇団『カルメン』ミカエラ役、2019年『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナ役、2021年『夕鶴』つう役、『千姫』千姫役、2023年1月井上道義『降福からの道』みちこ役等、話題作に続々出演。7月には兵庫県立芸術文化センター『ドン・ジョヴァンニ』(佐渡裕指揮)にツェルリーナ役で出演。また、マーラー交響曲第4番、フォーレ「レクイエム」、ヘンデル「メサイヤ」、ヴォーン・ウィリアムズ「海の交響曲」等ソリストとしても多くのオーケストラと共演。2019年サードアルバム「日本の詩(うた)」を日本コロムビアよりリリース。

2017年第27回出光音楽賞、19年第20回ホテルオークラ賞受賞。日本音楽アカデミー会員。藤原歌劇団団員。大阪芸術大学准教授。

河原 忠之(ピアノ)

Tadayuki Kawahara/ Piano



日本を代表する錚々たる歌手たちから共演者として抜群の信頼を得る、日本の“歌”を支える音楽伴奏のスペシャリスト。

アルド・プロッティ氏の伴奏ピアニストを務めた経験から紡ぎだされる幅広い音色と、イタリアで培った繊細な音楽表現には定評がある。

2019年NHKニューイヤーオペラコンサートに出演した「太閤」男声オペラ歌手4人とのユニット、IL DEVU(イル・デーヴ)のメンバーメンバーであり、指揮者、企画プロデューサーとしても活躍。

国立音楽大学卒業、同大学院修了。同大・同大学院教授、日本ヴェルディ協会理事、日伊音楽コンクール審査員。新国立劇場オペラ研修所でも音楽主任講師として長年後進の指導にあたってきた。

公式HP:<http://www.kaz-matsumoto.com>

播磨国吹奏楽団(吹奏楽)

Harimanokuni Suisougakudan / Wind Ensemble



2020年7月、新型コロナウイルス感染症をはじめさまざまな困難に立ち向かっている方々にエールを送るため、姫路市と親交の深い国・フランスを舞台とした物語「レ・ミゼラブル」をテーマに動画を制作し、国内外に向けて発信する「音楽のまち・ひめじ 姫路レミゼプロジェクト」を実施。テーマ曲の「民衆の歌」吹奏楽版をパルナソスホ

ールで収録し、プロの歌手や市民の歌声を追加編集して姫路市のYouTubeチャンネル「ひめじ動画チャンネル」で公開したところ、再生回数が1万回を超えるなど大好評を得る。

吹奏楽版を演奏したのは姫路から阪神間のプロ管打楽器プレーヤーで、このたび新たに「播磨国(はりまのくに)吹奏楽団」として再集結。力強く繊細な音色は唯一無二であり、今後の活動展開が期待されている。

大島衣恵/ 能楽

Oshima Kinue/ Nougaku



能楽師 シテ方喜多流

(社)能楽協会会員

1974年生れ。2才、「鞍馬天狗」稚児で初舞台。祖父久見、父政允(シテ方喜多流職分 国総合指定重要無形文化財)に師事。現在、喜多流大島能楽堂(広島県福山市)を拠点に国の内外で活動。エリザベト音楽大学、おかやま山陽高校の非常勤講師。広島中国新聞文化センター講師。

2005年度「広島県民文化奨励賞」受賞

2007年度「広島県教育奨励賞」受賞

2010年度「広島国際文化財団 国際交流奨励賞」受賞

2018年度「広島文化賞」受賞

トラベル・ブラス・アンサンブル

Travel Brass Ensemble



アニメーション処理をした動く絵本を巨大なスクリーンに投影し、物語を有名な声優さんが朗読、その物語を金管楽器とピアノの生演奏が盛り上げるコンサート。取り上げる絵本は「ブレーメンの音楽隊」「オズの魔法使い」「オペラ魔笛」「ごんぎつね」「とのさまサンタ」など、誰もが知っている名作ばかり。



2004年、東京藝術大学の同期生によって結成。在学中より各地でのコンサートツアーを行うほか、テレビ番組での演奏や雑誌への掲載、イベントでのゲスト出演等、様々な場面で活動を行っている。また、2013年に立ち上げた、0歳から入場できる親子向けクラシック公演「絵本 de クラシック」は、これまでにない趣向を凝らした内容が話題となり、わずか数年で全国各地のチケットが完売する人気公演と成長し、既に数万人を動員している。2020年より既存の形にとらわれない新たなグループ Travel Brass Quintet+ (トラベル・ブラス・クインテット+) として再編

成をし、益々の活動が期待されている。“Travel/トラベル”には「音が伝わる」という意味があることから、自分達の音楽も伝わっていくようにという願いを込めて名付けられた。

池辺晋一郎/ 作曲家, 祝祭合唱団指揮, 総合プロデューサー

Ikebe Shi-nichiro / Composer, Conduct



作曲家。1967年東京藝術大学卒業。1971同大学大学院修了。池内友次郎、矢代秋雄、三善晃、島岡譲の各氏に師事。1966年日本音楽コンクール第1位。同年音楽之友社室内楽曲作曲コンクール第1位。1968年音楽之友社賞。以後ザルツブルク TV オペラ祭優秀賞, イタリア放送協会賞(3回), 国際エミー賞, 芸術祭優秀賞(4回), 尾高賞(3回), 毎日映画コンクール音楽賞(3回), 日本アカデミー賞優秀音楽賞(9回,うち3回最優秀賞), 横浜文化賞, 姫路市芸術文化大賞などを受賞。1997年NHK交響楽団・有馬賞, 2002年放送文化賞, 2004年紫綬褒章, 2016年第24回渡邊暁雄音楽基金特別賞受賞。現在東京音楽大学名誉教授, 東京オペラシティ・ミュージックディレクター, 横浜みなとみらいホール館長, せたがや文化財団音楽事業部音楽監督。ほか多くの文化団体の企画運営委員, 顧問, 評議員, 音楽コンクール選考委員などを務める。2018年10月より「ばらのまち福山国際音楽祭」総合プロデューサー。

土井範江/ ソプラノ, 祝祭合唱団指揮

Doi Norie / Soprano, Conduct



大阪芸術大学卒業。第19回日伊声楽コンクールソ入賞、同年、京都にて、関西日伊音楽協会主催・日伊交歓ガラコンサート出演。中国二期会主催、オペラ「カルメン」のフラスキータ役でオペラデビューを果たし、その後、「ラ・ボエーム」のミミ、ムゼッタ、「カルメン」のミカエラ、「愛の妙薬」のアディーナ、「こうもり」のアデーレ、「魔笛」のパパゲーナ、「海にのりゆく者たち」のキャスリン、「あまんじゃくとうりこひめ」のあまんじゃく等、多数出演、及び客演。

1989, 1998, 2003(実母の日舞と共演), 2004, 2007, 2009, 2010年リサイタル開催。ベートーヴェン作曲交響曲「第九」ソリストやジャンルを超えて様々な楽器と共演するかたわら、民話オペラの演出や音楽物語の朗読、地元合唱団の指導など活動の場を広げている。現在、レディースコーラス虹、混声合唱団コア・オルタンシア、CHORUS 慈音、ジュニアコーラスアンジュとも、鞆・巴コーラスの指導及び指揮。ムジカ・アヴァンティ代表。中国二期会副理事長。

柴田 真郁/祝祭管弦楽団指揮者

Shibata Maiku / Conductor



1988年北海道出身。東京音楽大学及び大学院を修了し、広上淳一、川瀬賢太郎、パーヴォ・ヤルヴィ各氏のアシスタントを務め研鑽を積む。これまでに札幌交響楽団、山形交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、読売日本交響楽団、群馬交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、中部フィルハーモニー交響楽団、京都市交響楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団、日本センチュリー交響楽団、広島交響楽団、九州交響楽団などに客演。また東京混声合唱団や新国立劇場合唱団の合唱指揮者として共演を重ねる。

現在オーケストラトリプティーク常任指揮者、東京混声合唱団コンダクター・イン・レジデンス、白河市コミネス交響楽団音楽監督を務める。

上野真樹/ヴァイオリン，祝祭管弦楽団コンサートマスター

Ueno Masaki / Violin, Concertmaster



東京藝術大学、ドイツ・ハノーファー国立音楽大学ソリストコース卒業。ドイツ・ヒルデスハイム歌劇場管弦楽団、ホーフ歌劇場管弦楽団、フィルハーモニア・フンガリカ、広島交響楽団のコンサートマスターを歴任。フリーの演奏家として恩師ユーディ・メニューインの「音楽家は平和の戦士」をモットーに、世界各地で「ドイツ平和村」「国境なき医師団」「難民施設」などの支援コンサート。現在、福山アルカータ合奏団ソリスト兼指揮者。広島センチュリー交響楽団、高松瀬戸フィルハーモニー交響楽団、廿日市室内合奏団コンサートマスター。

山路みほ/箏，三味線 祝祭邦楽団ゲスト

Yamaji Miho / Koto Shamisen



5歳より箏の手ほどきを、7歳より地歌三絃の手ほどきを竹本登代寿氏より受ける

岡山県立玉島高等学校卒業、東京藝術大学音楽学部卒業、NHK 邦楽技能者育成会 42期終了

文化庁芸術インターンシップ国内研修員に合格、沢井一恵氏に師事

平成 24 年度文化庁文化交流使

国内外での活動の他、長谷検校記念第 5 回全国邦楽コンクール最優秀賞受賞ほか数々のコンクールで優秀な成績を残す。

洋楽器や民族楽器との共演はもちろんのこと、合唱やオーケストラ・ブラスバンドとのセッション、能舞台や野外でのコンサート、ホテルでのディナーショー、落語とのジョイント、ミュージカルや芝居音楽・朗読・創作ダンスなどの作曲・編曲・音楽プロデュースなど、邦楽の枠を超えた幅広い活動を繰り広げている。現在、東京藝術大学同声会、森の会 会員